



### 当たり前にある日常のありがたさ

毎年、春休みに行われるセンバツ高校野球。学校関係者の皆さんにも、高校野球ファンが数多くいらっしゃることでしょう。その素晴らしいプレーにも心打たれますが、それに負けず劣らず感動を呼ぶのが選手宣誓。今回の選手宣誓もまた、胸が熱くなるものでした。

以下、全文を引用させていただきます。

今から92年前

第1回 全国選抜中等学校野球大会が開催されました

その翌年に創部された僕の野球部は

来年の春 高校の統合に伴い

新しく生まれ変わります

当たり前にあった景色がなくなる

その重みを僕たちは忘れてたくありません

当たり前にある日常のありがたさを胸に

僕たちはグラウンドに立ちます

そして支えてくださる方々を笑顔にできるよう

気迫を前面に出し 全身全霊でプレーすることを誓います

宣誓したのは小豆島高校の主将、樋本尚也君です。

小豆島高校は来春、土庄高校と統合され「小豆島中央高校」に生まれ変わります。小豆島も過疎化が進み、やむを得ない合併が行われる、ということなのでしょう。それでも母校がなくなるという一大事とその喪失感たるや、甲子園出場という快挙をもってすら消えない大きなものであろうと思います。

「当たり前にあった景色がなくなる」

そのことを、私たちは十分に理解し、かみしめることができているのでしょうか。失ってからでないといけない…というのでは遅すぎる、そんな貴重な日常が、私たちの目の前にはたくさん広がっています。

私自身は職業柄、私学の経営永続を支援させていただいていますので、今回の宣誓にあった内容は特に胸に響きました。ですが、学校がなくなることだけでなく、当たり前の日常がどんなに貴重で有難いものであるか、それは誰しもがかみしめるべきことでしょう。

いつもながら、高校生の純真に教えられることがたくさんあります。熱戦を感じながら、自らの役割を改めて強く認識し、当たり前にある日常のありがたさをかみしめました。

(弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」2016年3月22日付記事を改編し掲載しています)

1

1 **School Management Review**  
当たり前にある日常のありがたさ

3 **学校経営トピックス**

卯月  
April

4

2-3 **《連載》事業計画を作ろう！**  
第1回 事業計画はなぜ必要か

4 **会議のコツをひとつまみ**  
席替えしてみよう

2016

No.25

## 第1回 事業計画はなぜ必要なのか

突然ですが、御校は「なりたい姿」に近づいていますか？御校で育つ子供たちがそうであるように、だれしも、そしてどんな組織であっても、「なりたい姿」になることを目指して、日々努力や精進を重ねるものですよね。建学の精神からはじまる御校の歴史においても、あゆみの遅速はあっても、おそらく着実に「なりたい姿」に近づいていっていることでしょう。

…あれ？今、声がしませんでしたか？

…むむ、やっぱり声がするようです。

「この学校はどんな姿になるのがいいんだろう…」

「うちの学校は『なりたい姿』に全然近づいて

いない気がするけど…」

「最近はずしろ理想から遠ざかってしまっている

ような…」



その声の主は、まさかあなたではありませんか？実は、あちこちの私学を訪れる中で、このような声は少なからず聞こえているのが現実です。

崇高な理念を掲げて始まった御校の創成期から、現在までにどのくらいの時間が経ったのでしょうか。それだけの時間をかけてもなおたどり着けないほど、理想とは尊いものなのでしょう。しかしながら、学校においては絶えず教育活動が展開され、同時にそれを成立させるための学校経営が実践されているのですから、たとえどり着けずとも、せめて理想に「近づいている実感」があってしかるべきです。ところがその実感すらないのであれば、それは学校経営における非常に大きな問題だと言えます。

では、なぜ理想に近づけていないのでしょうか。

その理由は明快で、「理想に近づくための要素が欠けている」ことがその答えです。つまり、理想に近づくためには、いくつかの「要素」が必要であるにもかかわらず、学校経営においては、その要素が満たされていないケースがよく見受けられます。そしてそのために、何年経ってもなりたい姿になれず、それどころか近づくことすらできないという現実になってしまうのです。



私の好きな言葉に、「散歩の途中で富士山に登った人はいない」という言葉があります。富士山に登ったことがある人は皆、「富士山に登ろう」という『意志』を持っています。

そして、どうやったら富士山に登れるか、その『方法』を知っています。さらに、万一に備えて、リスク回避を含めた『軌道修正』に関する情報も持っています。

ここで触れた『意志』『方法』『軌道修正』が、なりたい姿に近づくために必須の要素です。すなわち、学校という場にいるメンバーがなりたい姿に近づこうという『意志』を持ち、どうすればなりたい姿になれるかという『方法』を知り、実際の活動の中でうまくいかないことが出てきた際に『軌道修正』することができれば、組織はなりたい姿に着実に近づいていきます。逆に、これらが無い状態で理想に近づこうとしてもうまくいくはずがないのです。



事業計画というのは、これらの要素を確実に満たすために作成するものです。中には事業計画のことを「行政に提出するための資料」「形式的な書類」だと勘違いされている方もいるかもしれませんが、それは全くの誤解です。事業計画書はメンバーの意志を確認し、方法や行動を具体化し、軌道修正を行うための材料を提供してくれる、まさに「理想に近づくための道具」なのです。日常に追われているとつい忘れがちなこれらの要素を、常に補ってくれる貴重な存在なのです。つまり、事業計画は行政のためのものではなく、形式を整えるためのものでもない、御校の経営を理想に向かわせるためのものなのです。

最後にもうひとつ、富士山に登るためにどうしても必要なものを挙げておきましょう。それは『目標』が明確であること。「どこかの山」ではなく、「富士山」という、まぎれもなくこの世にひとつしかない目標を掲げることこそが、理想を現実にするために必要なことなのです。事業計画には必ず目標が明記されます。御校の理想を明確な目標にするために、そしてその目標を達成するために、事業計画は必要不可欠なツールなのです。

## 学校経営トピックス ～2月掲載ブログより～

- 2016. 2. 26 私立大学等経営強化集中支援事業
- 2016. 2. 22 人口動態調査・賃金構造基本統計調査
- 2016. 2. 19 働かない働きアリ 集団存続に必要
- 2016. 2. 18 朝型の人、増える
- 2016. 2. 2 チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について

学校経営ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」<http://ysconsult.hatenablog.com/>

# 会議のコツをひとつまみ



理事会、評議員会、各種の委員会、部会、そして職員会議…

ミーティングや打ち合わせなども含めると、人が集って話し合うことは日常茶飯事です。

そんな会議にちょこっと工夫を加えてみませんか。ほんの少しの隠し味が、生まれる成果を豊かにしてくれますよ。

## 席替えしてみよう

学生時代、席替えってとっても楽しいイベントでしたよね？…あれ？私だけでしょうか？そんなことはないですよ。皆さんにとってもワクワクドキドキの瞬間だったことでしょうか。ところが大人になるとめっきり席替えをしなくなってしまいます。職場における配席というのは業務遂行がしやすいように配置されているため、それを変えることは仕事を非効率にするという考えに基づいているのでしょうか。

ですが、近年に限って言えば、私はこのことがかえって職場の雰囲気停滞させているようにも思います。事実、私は以前在籍していた会社で人間関係が硬直化してきたのを感じて、非効率を覚悟で席替えを提案。その結果、確かに部署単位で座席が固まっていた頃よりはコミュニケーションがとりづらくなるという現象は起こりましたが、それ以上に、普段接点のないメンバーとのやり取りが劇的に増え、組織全体の風通しが良くなりました。そして何より、席替えのワクワク感が再び味わえるとあって、メンバーの多くは歓迎ムードに。半年に1回の席替えが待ち遠しいイベントになったことを覚えています。

席替えのワクワク感は、何も「好きな人の近くに座れるから」だけではありません。いつもと違う席に座ることで、目の前に広がる景色が変わり、自分の気持ちも少なからず変わります。そして全員がそのような気分を味わうことで、場の雰囲気も変わるのです。

おそらく皆さんは、定例会議等の際に自分が座る席を無意識に決めておられることでしょうか。大人になると変化を嫌がる気持ちが強まり、自分が参加する場における「定位置」を決めてしまおうとするのです。これは決して悪いことではありませんが、全員の座席が固定化されてしまうと、どうしても会議自体の雰囲気も固定化しがちになってしまいます。

そこでやってみていただきたいのが「いつもと違う席に座る」ということ。誰かが違う席に座ると、いつもその席に座っている人も別の席に座らざるを得ません。こうやって、いつもとは違う雰囲気の会議場ができあがります。雰囲気が変わると会議のやり方もきっと変化することでしょう。



### ◆Y's学校経営情報 バックナンバー◆ ……ご入用の方は [info@ysmc.co.jp](mailto:info@ysmc.co.jp) までご連絡下さい。

2015年度連載記事【学校法人の決算書を読み解く ～新会計基準もこれでバッチリ！～】

第1回：決算書を経営に活用するために

第7回：サービスの流れとお金の流れの差を知る

第2回：学校の業績をつかむ

第8回：資産規模が大きくなる要因を知る

第3回：お金の出入りをつかむ

第9回：経営危機に陥る原因を知る

第4回：財産の状態をつかむ

第10回：安全性について分析する

第5回：業績の要因を知る(収入編)

第11回：採算性について分析する

第6回：業績の要因を知る(支出編)

第12回：連載まとめ～学校経営にも「論語とそろばん」を～

学校経営のことなら…



未来へつなぐ、夢がある。

株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: [info@ysmc.co.jp](mailto:info@ysmc.co.jp)

URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)

Facebook<sup>®</sup> -じ: <https://www.facebook.com/ysconsult>